

2012年  
1・2月号

# TOKYOタイムズ

トキオ

NO. 106  
岩本工業(株)

ホームページ <http://www.iwmt-kg.co.jp/>

Eメール: [iwamoto@iwmt-kg.co.jp](mailto:iwamoto@iwmt-kg.co.jp)

## 「企業の社会的責任」

H24年1月吉日 岩本 博之

昨年は人智を超えた自然災害(東日本大震災・バンコク水害)から原発の人災や大企業(オリンパス・大王製紙・ジャイアント)の隠蔽土壌の暴露など厳しい一年でしたが、今年は「飛龍」の如く躍動する日本国に期待します。私は右翼(天皇を崇拜する民族主義者)でも左翼(社会主義者)でもありませんが「天皇家」や「日の丸」に敬意を払い日本人としてのプライドを持っています。しかしながら日の丸掲揚や君が代斉唱に異を唱える教育者とそれらの影響を受けた子供達が育つ事に大きな不安を感じます。「リスペクト」尊敬や尊重する心が希薄になればプライドも無くなり、その顕著な例が生活保護受給者の増加です。60年前の'51年204万人から'95年83万人'11年206万人・給付総額3.4兆円。最低賃金で得る所得を上回る保護費が良い政策とは思えません。20年前までは失業比率2%前後だったものが現在は5%前後の不安定な社会ですが、近代国家と称えられるアメリカ・ドイツ・イタリア・フランス・英国は8%~12%。特に失業している若者が20%と言う国は社会不安となって暴徒化しています。この現状を見てリーマンショック後の'09年'10年当時の生産状況を振り返ると空恐ろしくさえ思います。製造業界は以前の8割減産を余儀なくされ我が社も'10年2月頃には運転資金が枯渇し金融関係からの支援を頂けず、最後の頼みの綱「政策金融公庫」様にバブル崩壊時期と同様に助けて頂き今日が有ります。一部の地元銀行には企業の潜在(経営幹部や社員の資質)能力調査にもっと勤勉になって頂き、企業育成の高邁な経営理念の基、是非目を見開いて製造現場からその企業の空気をシビアに嗅ぎ取って頂きたいと思います。そしてこの時期に最も感謝したのは「雇用調整助成金」制度です。'09年秋頃に10名強の人員整理を敢行し、以降は鉄工機電協会や諸組合&個々の講習会参加(7~8回/月)で助成金を15ヶ月余り頂きました。製造現場で立ち作業に慣れた社員の皆様にとっては不慣れな座学で御苦労が多かった事と思いますが、この制度により20名余りの雇用確保が成されたと認識しております。エンジニアが退職すれば技術の蓄積が途絶え日本の製造業界は再起不能になったと思います。1ヘクタールの森林から1Haを増やすには3年余りで拡張出来ますが、砂漠化してしまった土地からの植林では20年の月日と大きな労力が必要です。国力の基礎体力・ベースになるのは第一次(農林漁業)・二次産業(工作機械・建設機械・自動車など製造業)に従事する人達の地道な努力の上に成り立つと思えます。

**CSR(Corporate Social Responsibility)**とは企業が利益を追求するだけでなく、**組織活動が社会へ与える影響に責任をもち、あらゆるステークホルダー(利害関係者:消費者、投資家等、及び社会全体)からの要求に対して適切な意思決定をすることを指す。**

社会へ与える影響に責任を持つ、このキーワードが物造りに携わっている人々に根強く浸透しているのは間違いありません。原発の事後処理現場では外国製ロボットが目立っていますが、軍需転用される恐れのある分野に関しては航空機や探査衛星なども含め日本への縛り(旧 ココム規制)がきつく、遠回りせざるを得ない時代がありました。しかし今や HONDA の小型ジェット機やロボット「アシモ」、トヨタのパートナーロボット、コマツの鉱山用大型車の無人運転(衛星から位置検知)システム、は最先端の技術で環境・安全や人間と共生する新未来を切り開く分野です。物造りの世界には日本人の独創性と精緻さを具体化出来る大きな活躍の舞台があります。政治家の皆さんには日本人としての誇りを持てる教育現場(+若者たちが同朋意識を持ち国を守るための徴兵義務)を再構築して、国民特に若者が夢を持てる国造りに情熱を燃やして頂き、我々製造現場は機械とコンピューターを融合させた無限の世界を広げ、漁業や農作物さえも天候に左右されないハイテク工場生産する時代を日本が先頭に立って作り上げるでしょう。



## 石川県鉄工機電協会様主催 永年勤続表彰

11月8日 地場産業センター

勤続20年・・・西村  
川畑  
勤続10年・・・荒野  
高瀬  
久保

おめでとうございます。  
更なる技術向上と後輩指導をお願いします。



倉部工場正面にて(川畑:出張中)

## 自転車レース



11月5日 第3係 西村

11月5日、社員7名で鈴鹿の自転車8耐に参加してきました。8耐と言っても出場したのは3時間耐久チーム戦です。前日18時に会社を出発し4時間半掛けてホテルに到着、当日のピットは到着順なので良い場所を確保する為に朝5時起きと体力的には辛いスケジュールとなりました。

しかし本当の地獄はこの後でした・・・!

私は川畑課長と二人のチームだったのですがその川畑課長が練習走行2週目に接触事故で転倒し、途中で復活してくれると思っていましたが思いのほか重症(全治8週間:鎖骨骨折したが仕事は無欠勤で頑張っています)で3時間を1人で走ることになってしまいました。そこからはペース配分を考えて上りでは無理をせず下りで少し攻めて同じペースの人のスリップストリームに入り、時々高齢者や女性に抜かされながらも無事完走。他のメンバーは課長の自転車を借りていた田中祐大君も転倒して肘を擦り剥きフレームが曲がってしまいましたが、自転車を交換して完走は出来た様です。弊社で参加した3チームは有馬・若林ペアが10周、東、亀井、田中(祐)トリオが9周、私が14周でサイクルコンピュータでは走行距離81kmでした。

自転車は元々友人の影響とチェレステグリーンのロードバイクに乗りたいと思い30才頃から始めましたがあまり乗ることも無く、40才を過ぎてから体重が増加したので健康の為に再びチャレンジしました。自転車の魅力は乗っている時に開放感と言うか自由を感じるところです。

レースはママチャリの人や仮装部門もあり気楽に参加出来るそうなので、興味のある方は一度参加してみるのもいいかもしれません。



### 1月

### 2月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
29	30	31					26	27	28	29			